



WAFCA ANNUAL REPORT

2023



表紙の写真は、WAFCAのプログラム
Icecream Campの一環で、ノンカーイ県の観光地を訪れたときの写真です。
(Icecream CampについてはP.10をご参照ください)

発行：認定NPO法人アジア車いす交流センター（WAFCA）
〒448-0026 愛知県刈谷市中山町二丁目38 ディースクエア4F
TEL：0566-23-5822 FAX：0566-23-5727 MAIL：contact@wafca.jp

発行日：2024年6月15日

車いすが変える、子どもたちの世界。



「僕に障がいがあるのは、
前世で悪いことをしたからなの？」



「私がいなくなったら、
この子はどうなるのでしょうか。」



「みんなと同じように、
毎日学校に行きたい。」

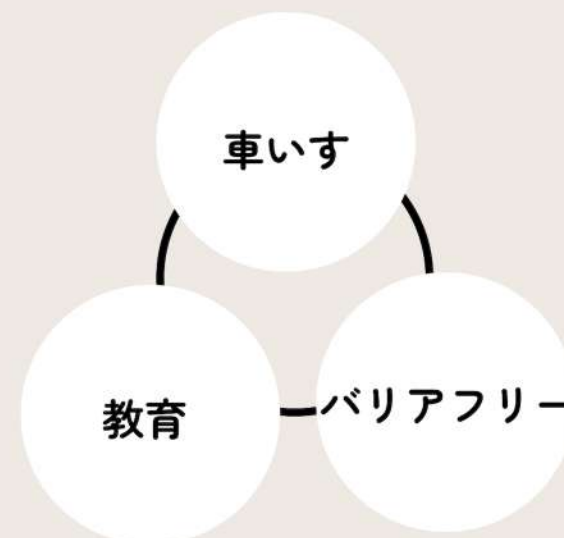
外出できる楽しさを

学べる喜びを

働ける生きがいを

すべては一台の車いすから

WAFCAの活動



- ・一人ひとりの体に合わせた車いすが必要なこと
- ・車いすで学べる場や働ける場が必要なこと
- ・車いすで生活しやすい環境が必要なこと

2023年でWAFCA設立から24年。

積み重ねてきた年月の中での学びを活かし、
障がい児に対し包括的な支援を行っています。

数字で見る2023年度のWAFCA

＼車いす寄贈台数／

405



タイ162台+インドネシア243台



＼奨学生の人数／

107人

タイ52人+インドネシア55人

＼バリアフリー工事の件数／

学校 **2**校

タイ1校+インドネシア1校



＼収入総額／

¥ **43,217,219**

事業収入他
8.8%

企業寄付
38.4%

会費
32.8%

個人寄付
20%

＼個人会員数／

2,857人(前年比+98名)

学生会員
5人

個人正会員
1,143人

個人賛助会員
1,709人

WAFCA Group Vision 2030

WAFCAは障がい児一人ひとりに寄り添い、
自立へ導く実効性のある環境作りに取り組むことによって、
障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上を実現します。

理事長あいさつ



私が榎田前理事長からこの大役を引き継いで丸3年が経ちました。国内では少子高齢化による財政再建や、環境、教育、対外政策に関する課題等が山積し、世界では様々な利害関係が錯綜しながらグローバル化が深まる一方で分断化が進んでいます。バブル崩壊後の1990年代から現在まで、経済の低迷から脱せない状況に対して「失われた30年」という表現も使われてきましたが、このような時代にWAFCAは設立し、今年25周年という一つの節目を迎えております。

時代の波を感じつつも、WAFCAは設立理念を軸に、アジアの障がいのある子どもたち一人ひとりに寄り添い、彼らの生活の質の向上に取り組みながら自立を支援して参りました。現代社会には課題が無数にありますが、私たちWAFCAの使命に今も揺るぎはありません。これは一重にWAFCA設立に貢献された信念ある方々のお力、その理念と実践していく姿に共感してWAFCAを支え続けて下さった会員及び多くの皆様方のお力添えによるものです。改めて心より御礼申し上げます。

これからもWAFCAは直面している課題に真摯に向き合い、解決していくチカラ（実現力）をさらに培って、皆様と共に目指すべき将来を描きながら邁進していきたいと願っております。

どうぞ、これからも末長くWAFCA、そしてWAFCAグループを宜しくお願い申し上げます。

WAFCA 理事長
桜花学園大学 教授 寺田恭子



▲寺田理事長・豊田理事
2023年12月
車いすダンス合宿研修に講師としてタイへ



▲加藤副理事長・岩原理事
2024年2月
愛知県経営者協会研修でタイ車いすサービスセンターへ

副理事長



設立30周年を迎える2030年に向けて、WAFCAは、着実に歩みを前に進めています。WAFCA ThailandやWAFCA Indonesiaなど、現地の事務局のスタッフの皆さんとの連携のもと、子どもたちに車いすや奨学金を送って参りました。経済発展が著しい国や地域の中で、問題になっているのは経済格差の広がりです。学習意欲や就労意欲があっても、教育や雇用の機会に恵まれず、低賃金・重労働の仕事にしか就けない人が増加して、貧困の連鎖から抜け出せないという現実があるのです。SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」、目標10「人や国の不平等をなくそう」など、WAFCAの活動は「誰ひとり残すことなく、平等に、豊かに、幸せに暮らすこと」を合言葉にするSDGsの目標を少しずつ実現させることにつながっています。WAFCAが支援した家庭や子どもたちから届く喜びのメッセージや、子どもたちの笑顔は、私たちにとって大きな喜びです。『車いすが変える、子どもたちの世界。』をたくさん実現させていきましょう。

名古屋国際工科専門職大学 教授 佐藤久美

副理事長



2023年度は、副理事長に就任後、初めてWAFCA車いすサービスセンターを訪ねました。タイの障がい児一人ひとりの体に合わせて、車いすをフィッティングしている様子を確認でき、「1台の車いすで、障がい児が外出できるようになる、学校に行ける、仕事に就くことができる、まさに障がい児の人生の可能性を広げる活動に取り組んでいる」ということを現地現物で実感することができました。

1949年に創業したデンソーは、今年の12月で75周年を迎えます。創立50周年でWAFCAを設立し、今日までWAFCAを育ててこられた諸先輩方、そして日頃からWAFCAを様々な形で支えていただいている会員・企業・サポーターの皆様へ、心から感謝と敬意を表するとともに、受け継いだ襷を進化させ、次世代に着実につないでいくことで、WAFCA Group Vision 2030を実現していきたいと思っております。

株式会社デンソー 総務部長 加藤晋也

理事



日進医療器株式会社
代表取締役
松永 圭司

理事



愛知県立安城特別支援学校
元校長
藤原 孝太郎

理事



藤田医科大学保健衛生学部
リハビリテーション学科基礎理学療法学講師
都築 晃

理事



車いすダンスピパーチェ
代表
豊田 優

理事



愛知県経営者協会
専務理事兼事務局長
岩原 明彦

理事



デンソー太陽株式会社
前代表取締役
岩崎 正

監事



会計事務所プロースト
税理士
金子 尚弘

監事



あいおいニッセイ同和損保株式会社
トヨタ営業部長
米光 秀司

WAFCAの強みである総合的、継続的支援を着実に推進
多くの障がい児が一人ひとりのレベルに応じた自立を実現



WAFCAT車いすプロバイダー
イウさん

2023年度の振り返り

アクティブな活動ができるようになりました

WAFCA Thailand(WAFCAT)のイウです。WAFCATの2023年度の活動について報告をします。車いすサービスの提供に関しては、34県に162台の新しい車いすを162人の身体障がい児に提供することができました。

続いて、2019年にサムットプラカーン県特殊教育センター内に作られた車いすサービスセンターについてご報告です。センターの目的は車いす支援事業でより良いサービスの提供と事例作りに取り組むことです。主にセンターでは車いすの在庫管理や修理、保護者や理学療法士向けの研修、クッションなどのフィッティング材料の加工・管理、あとは来客者向けにWAFCATの車いすサービス提供に関するパネルを使って活動紹介などを行っています。

2020年から始まった新型コロナウイルスの影響で活動が滞っていましたが、ようやくアクティブな活動ができるようになりました。

車いす支援事業

5年間の推移

(単位：台)



学校で勉強してみたい 友達を作ってみたい

夢をカタチにすることが できました

ナットちゃん(12歳)

ナットちゃんはノンカーイ県で母親と父親と一緒に暮らす女の子です。父親は日雇い仕事をしていて、収入は少なく、日によっては仕事が全くないことも。母親は仕事はしておらず、多くの時間を子どもの介護に費やしています。ナットちゃんは幼少期から障がいがあり、今も徐々に筋力が低下しています。

車いすは特殊教育センターに通う準備をしていたとき、WAFCATから提供されました。2020年のことです。

その後、2023年にWAFCATはフォローアップのため再び自宅を訪問。彼女の成長は目まぐるしいものでした。自力でなんでもやろうとし、意思疎通が以前よりしっかりできるようになっていました。

彼女自身は勤勉で学校で勉強したいという意欲が強くあり、友達を作りたいと言っていました。自宅から通える学校を両親に勧め、2023年度に正式にWAFCATの奨学生として教育支援を受けることが決定しました。

今後もナットちゃんの支援を続けていきます。





インドネシア



2023年度の振り返り

WAFCAIマネージャー
レオさん

障がい児の喜びや幸せが伝わってきます

WAFCA Indonesia(WAFCAI)のレオです。WAFCAI の2023年度の活動について報告をします。

皆様のご支援のおかげで、WAFCAIは、インドネシアで243台の車いすを提供し、55人奨学生に奨学金を提供することができました。その他に、2,094人の障がい児に対してフォローアップを行うことができました。多くはWhatsAppでの通話で、一部は現地訪問ができました。

私たちは障がい児が移動できるようにし、より学校や地域での活動に参加できるように最大限取り組んできました。実際、彼らが学校で車いすを使ったり、車いすダンスコンテストで車いすを使って踊ったとき、彼らの喜びや幸せが伝わりました。

最後に、皆様のご支援に心より感謝申し上げます。日本の支援者の皆様の健康と成功を、お祈り申し上げます。ぜひインドネシアに来ていただくと嬉しいです。お待ちしております。

車いす支援事業



5年間の推移



適切なフォローとメンテナンス

そのおかげで夢や希望を 追いつけることができる

アジズくん(14歳)

アジズくんは生まれつき身体が不自由なため、毎日の移動には車いすが必須です。2016年にWAFCAIから車いすを受け取りました。

家に車やバイクがないため、毎日5~6キロの距離を母親が車いすを押して通学しています。そのため、定期的にWAFCAIから車いすのメンテナンスを受けています。

時が経つにつれて、アジズくんの状態は良くなり、必要な車いすに変化が訪れました。

2023年にWAFCAIはアジズくんの車いす交換のリクエストに応え、彼の能力に合ったアクティブタイプの車いすと交換しました。アジズくんは、新しい車いすが彼の活動や日常生活に本当に役立っていることを実感し、とても喜んでます。「車いすのおかげで夢や希望を追いつけることができる。WAFCAIの支援にとっても感謝しています。」



家族に抱えてもらうしか 移動ができない

そんな日々を変えてくれました

ナイラちゃん(11歳)



ナイラちゃんは、いつも熱心で明るい小学5年生の女の子。足に障がいがあります。彼女が生後9ヶ月のとき、筋肉の機能や動きに問題を起こす脳性麻痺だということがわかりました。病院で医師による治療を受けてきましたが、時が経つにつれ、ナイラちゃんは歩くのが困難になり、学校へ行くにも抱えて連れて行く必要がありました。

2017年、彼女が6歳のときにWAFCAIから初めての車いすを贈りました。2023年、体が大きくなったナイラちゃんに2台目の寄贈をしました。移動がより快適になりました。



家族の切実な願い

「やっと小学校に入れた。
この先も中学、高校へと
上がれますように。」

寄付募集強化月間の実施

24年活動を続け支援してきた奨学生の
の高学年化に伴い、
12月4日～1月13日の約1ヶ月間、
年末募金「障がい児教育支援基金」
キャンペーンを実施し、WAFCA会員
の皆様へご寄付のお願いをさせてい
ただきました。

▼募集結果

金額：2,127,000円

人数：267名



グループ全体で次のステップへ ようやく見えてきた成果を広げるために

WAFCAT奨学生向け

能力向上研修合宿 ICE CREAM CAMP

インクルーシブ教育と自立生活モデルの開発に重点を置き、障
がい児一人ひとりのニーズに基づく総合的な支援をする
ため、2018年から実施しています。

2023年の実施概要

日時：2023年10月25日～27日

場所：ノンカーイ県レデンプトリスト高等専門学校

参加者：奨学生35名＋支援者＋学校関係者＋公務員＝70名以上



こんな意味が込められています

- I= Independent (自立)
- C= Capacity (能力)
- E= Experience (体験・経験)
- C= Commitment (責任)
- R= Relationship (関係作り)
- E= Empowerment (力をつける)
- A= Achievement (達成感)
- M= Motivation (動機付け)



2023年度は107人の奨学生を支援しました

支援内容

重複あり



26人
学校に支払う費用

(教材費、昼食費、ヘルパー人件費など)
¥205,999



33人
通学にかかる費用

¥583,317



32人
その他 (研修合宿参加やインターンシップなど)

¥153,191



55人
学校に支払う費用

(教材費、文房具購入費、制服購入費など)

¥1,047,533



6人
通学にかかる費用

¥5,263

先生になって 他の障がい児のために働きたい

ジュリアさん(17歳)

ジュリアさんは、WAFCAIをきっかけに日本文化に興味
を持った女の子。特別支援学校に通っており、日本語で
自己紹介ができます。

彼女には“先生になって他の障がい児のために働きたい”
という夢があります。

同じ特別支援学校に通う子たちはだいたい卒業したら、
親のお店を手伝うなどの仕事をするケースが多く、
大学生になった子はまだいないため、なんとか勉強を続
け、初めての大学進学者になりたいそうです。



バリアフリー支援事業



みんなに優しい学校づくりを

タイ



タイ東北部、ルーイ県パーカーオ区の学校に通っているガンナムくんのために、バリアフリートイレにしました。自分の力で自由にトイレに行けるようになりました。

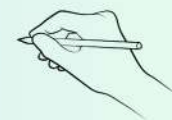
インドネシア



インドネシアの西ジャワ州にあるウラカ・ペンカ南ジャカルタ 特別支援学校に通っている兄弟、アブディルくんとアブダットくん。

彼らが通う学校のトイレを、バリアフリートイレに改築中です。2024年度内の完成を予定しています。これから学校に通おうとする障がい児にとっても嬉しい支援です。

海外事業のサマリー・展望



車いすはスタート地点に立つ手段

タイ事業：24年間の長期間に渡る活動に伴い、支援する障がい児の高年齢化・高学歴化が進みました。大学や専門学校を卒業し見事就職できた奨学生が、現在進学し勉強やクラブ活動に励む障がい児の、良いロールモデルになっています。Icecream Camp(P.10参照)を通じて、更なるネットワークの強化を図ります。

インドネシア事業：アダプティブシートを用いて車いす供給の安定ができています。また、自国でのファンドレイジングにも力を入れ独自の企画を展開しました。今後は自立へ導く実効性のある支援として、脳性麻痺児童のケアセンターの拡充を目指していきます。

中国事業：昆明市にある雲南特殊教育職業学院で学ぶ障がいのある学生への車いすと奨学金の支援、日中の若者の交流活動を行ってきました。2023年度も計画通りの支援と国際交流の再開を試みましたが、雲南特殊教育職業学院の運営方針の変更から、車いす10台と奨学金50名分の送金を見送ることにいたしました。

グループ全体：「障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上」を目指し、WAFCA支援活動のレベルアップを図り、車いすだけでなく車いすを活かせる環境づくりに力を注ぎます。

現地の仲間の声に耳を傾け、会員の皆様をはじめとする関係者とのコミュニケーションを大切にすることで、WAFCA Group Vision 2030を実現します。



インドネシア脳性麻痺ケアセンターの写真

国際交流事業



ビジョンの実現に向けた活動の4本柱

日本と海外の交流

日本と海外および海外現場間の交流を定常的かつ活発に促進
 ①相互理解と支援レベル向上 ②各国でWAFC Aへの共感拡大



日時：3月10日 9:30~14:00
 場所：ディースクエア 地下1階ホール
 ゲスト：シンガーソングライター 柳田はるかさん



第3回車いすダンスグローバルフェスティバル

車いすダンスグローバルコンテストは、各国から集まった36本の動画の中から、審査員が選んだ8チームが入賞、入賞チームにはトロフィーを贈りました。この日行われたのは表彰式。タイとインドネシアから現地の子どもたちや保護者がオンラインで参加しました。

ボッチャ交流大会

ボッチャは老若男女、障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるインクルーシブなスポーツです。初めての交流大会では、全部で12チーム約40名の方がご参加。WAFC Athleteチームも参戦し、白熱した試合となりました。最後に表彰式を行いました。今後もボッチャを通じて交流できる場を作りたいです。



フレンドシップツアーinタイ

3年ぶりのタイフレンドシップツアーは、今回で第20回目となりました。タイ視察を通じて、寄付者・ボランティアが現地の障がい者と交流し、相互理解を図りました。今後も、会員の皆様が現地活動に参加できるツアーを実施していきます。



日程：11月23日~27日(全5日間)

参加者：WAFC A会員 9名

訪問県：バンコク都、サムットプラカーン県、
 コーンケン県、マハーサラカーム県

内容：サムットプラカーン県特殊教育センターと
 車いすサービスセンター訪問、車いす整備活動、
 バンコクツアー(ロイクラトン祭り)



参加者の感想

充実した旅でした



とても充実した旅になりました。準備して下さった事務局の皆様ありがとうございました。WAFCATの皆さんが参加者を楽しませる為に、色々と考えてくれたのが伝わりました。沢山、文化体験できて嬉しかったです。

ツアー参加者 原一将さん

他ではできない経験



今回のツアーの良かったプログラムは車いす整備活動でした。他では出来ない貴重な経験ができました。世代が違うツアー参加者と触れ合えて、多種多様なお話が聞けたのが良かったです。

ツアー参加者 中嶋周二さん

WAFCJA日本の取り組み 事務所移転/広報事業

● 新事務所

8月28日刈谷市中山町にあるディースクエア4階に事務所を移転しました。新しい事務所と車いす病院を写真でご紹介します。



▲WAFCJA事務所



▲WAFCJA車いす病院

● 授業参観/学生ボランティア受入

WAFCJAの活動を広く多くの人に知ってもらうべく、大学や高校生向けに授業を実施しました。

実施校

桜花学園大学/金城学院大学/
デンソー工業学園/東刈谷高校/
いなべ私立北勢中学校

内容：WAFCJAの活動紹介
障がい児の事例紹介
車いす乗り方体験
バリアフリー体験
ファンドレイジング
企画立案

それぞれの目的に合わせた
講座を実施しました。



● WAFCA新オフィスお披露目会

10月7日、ディースクエア アトリウムでWAFCA新オフィスお披露目会を実施しました。当日は特別ゲストである全盲の歌姫 若菜さんによる歌の披露から始まり、WAFCAthleの上総香子さん、伊集南さん、デンソーアイリス

の永田萌絵選手、赤穂さくら選手、木村亜美選手がご来場されました。

また、オンラインで日本、タイ、インドネシアを繋げて現地活動報告会を実施。リニューアルオープンした車いす病院の見学、チャリティ商品販売、ポッチャ体験、フリーマーケット、そして古本市も同時進行で行いました。100名を超える来場者で盛り上がった一日となりました。



● イベント出店

コロナ禍に滞っていたイベントが解禁。たくさんのイベントに出店しWAFCAのPR活動を行いました。チャリティグッズは、製作者の技術の高さに多くの方が驚き、購入していただいています。24年度もWAFCA・WAFCAIとともに新商品の検討を行い、売上アップと障がい者支援につなげていきたいと考えています。



▲イベントでは車いす乗車体験を実施。子どもたちに大人気





● WAFCAthlete

WAFCAthleteは、WAFCJAの「広報」を担うアスリートのチーム。
スポーツという切り口で、WAFCJAの新たな層への認知度を高め、仲間を集めます。

現在、バスケ・バレー・ソフト・卓球・ボート・陸上・アーチェリーから19名のアスリートが活動中です。

試合会場にて「車いすを届けようキャンペーン」を実施

アスリートの試合会場でWAFCJAブースを出店しました。
チャリティ商品の購入金額や寄付額に応じ、アスリートのサイン入りグッズなどの特典を提供。
多くのファンとWAFCJAを繋ぐ架け橋になっていただきました。年間動員人数は500名を超えました。



▲4月・9月ソフトボール



▲10月ボート



▲11月卓球



▲11月アーチェリー



▲3月バスケットボール



▲12月・2月バレーボール

WAFCJAチャリティウォークのサポート

WAFCJAチャリティウォークでは、広報用動画を作成。1. 8万回再生され、WAFCJAの動画で過去最高の視聴数となりました。
また、参加者特典としてプロのアスリートがバラエティに富んだ運動講座を実施しました。



オリジナルグッズ制作・販売



7月には、WAFCAthleteが案を出し合ってオリジナルグッズを作成。
1週間でファンの方々を中心に200枚のTシャツ、アイテムを購入いただきました。



WAFCJA日本の取り組みファンドレイジング事業

● 会員募集活動

今年は年間8回の会員募集キャンペーンを実施し、186名の新たな仲間が加わりました。



増加要因

- ・デンソー工業学園での授業 (+20人)
- ・対面募集の質向上

+96
会員数
増!

会員の声はP.21へ

● 車いす病院

2010年に始動した車いす病院は24人の大きなボランティアチームとなり、日本とアジアの車いすユーザーを支えています。



2023年度は758,715円の利益があり、25台の車いす寄贈費になりました



▲新規で定期点検を取り入れた社会福祉協議会さんにて



▲ボランティアの皆さんの手で、引っ越しが完了しました

● 100円未満募金

＼車いす27台分になりました！

2023年度 登録者数 **1,001名**

寄付額 **695,495円**

2021年度4月からデンソー社員の皆さんを対象に開始した100円未満募金は、約3年で累計募金額1,497,039円、寄贈車いす台数は累計59台となりました。今後は、グループ会社の社員の皆さんにも展開していきたいと考えています。

● チャリティーウォーク

＼特設ページを作りました！

11月13日～12月3日に2回目となる、アプリを使ったチャリティーウォークを実施しました。



参加費

1,000円 (～3,000円の上乗せ寄付)

申込者数

2022年 **267名**

2023年 **463名**

総歩数

62,297,668歩

収入

参加費+上乗せ寄付 **960,840円**

＼最終日はクロージングイベントとしてWAFCJAから出発し刈谷を歩きました！



▲WAFCA Athleteの上総香子さんも参加。車いすで街歩きました。



▲最長距離のがつりコース。皆さんの笑顔が素敵でした。

WAFCA会員の声

WAFCAは2,857名（2023年度末時点）の個人正会員・賛助会員の方々と46社・団体の団体正会員・賛助会員の皆様に支えられて活動しています。

現地ツアーで出会った障がい児のご家族に 手を握って感謝された時の気持ちが、今でも忘れられません



正会員 川田明子さん

WAFCAを創設された政岡理事とは主人のタイ出向以来のご縁があり、政岡さんのご意思を継ぎたい気持ちで会員になりました。コロナ明けからは事務ボランティアにも参加しています。

最近では会員募集やリーフレットをデザインするチームにも参加中です。人を惹きつけるデザインは素人には難題ですが、とてもやりがいを感じています。

2012年WAFCA主催のツアーに参加した際、車いすを支給された子のおばあちゃんに、手を握って感謝された時の気持ちが今でも忘れられず、もっとこんな笑顔を増やせたらと微力ながらお手伝い頑張っています。

社会課題に自分は何をすべきなのか きっかけを探していました

社会課題に自分は何をすべきなのか、どうしたらできるのか、きっかけを探していた時、WAFCAボランティア講座に参加しました。事務局の近藤さん、北村さんの純粋な印象と、WAFCAの理念・活動への共感が入会のきっかけでした。様々な人と会えること・喜んでいただけることがうれしいです。

学ぶことも多く、一人ひとりに合った車いすの大切さ、寄付の話や他のNPOさんの活動など、多様。すべての人が自分らしく生きられる社会の実現に、WAFCAを通じて今後も貢献していきたいと思います。



賛助会員 丹羽 崇人 さん

WAFCAの魅力は、なんととっても「人」！



学生会員 山本 羽奈さん

コロナ禍でなかなか海外へ行けなかったとき、大学のボランティアセンターでタイに車いすを寄贈しているWAFCAを紹介してもらい、ボランティア活動を始めました。これまでにチャリティー商品の開発や絵本作り、タイ事務所の見学など大学生活ではなかなかできない貴重な経験をさせていただきました。

WAFCAの魅力はなんととっても「人」です。職員、車いす病院のボランティア、イベント運営の学生ボランティア、地域の障がい者の方などこれまでかかわってきた方はみなさんすてきな人ばかりでした。今後、そんなすてきな方々と一緒にWAFCAを盛り上げていきたいです。

ご支援・ご協力いただいている企業・団体様一覧

DENSO
Crafting the Core

MS&AD

あいおいニッセイ同和損保

団体正会員

株式会社デンソー／あいおいニッセイ同和損害保険株式会社／カリッソー株式会社

デンソーテクノ株式会社／デンソー太陽株式会社／デンソー労働組合／トヨタL&F中部株式会社

株式会社RandTカンパニー／株式会社UACJ Marketing & Processing／株式会社アイビックス／株式会社クイックス

株式会社デンソーウェーブ／株式会社デンソーシェアードサービス／株式会社デンソーエアクル／株式会社デンソーエスアイ

株式会社デンソーエムテック／株式会社デンソーエレクトロニクス／株式会社デンソーダイシン

株式会社デンソートリム／株式会社デンソーファシリティーズ／株式会社デンソープレストック／株式会社デンソーリマニ

株式会社デンソーロジテム／株式会社デンソーワイズテック／株式会社デンソー郵船トラベル／株式会社マキノ

株式会社ヤマイチプライメタル／刈谷紙器株式会社／京三電機株式会社／暁輸送株式会社／社会福祉法人太陽の家

石川管工株式会社／赤門ウイレックス株式会社／浜名湖電装株式会社

株式会社八神製作所／中部産業株式会社／新和薬品株式会社(順不同)

団体賛助会員

伊藤精工株式会社／株式会社デンソー コアスキル開発部 技能人材開発室 DNA研修課

株式会社デンソーサービス沼津／株式会社デンソーユニティサービス／株式会社デンソーワイバシステムズ

車いすツインバスケット岐阜エクスプレス／寿金属工業株式会社／日本福祉大学/スマイルひねる会/

株式会社モビリティイノベーションテクノロジー(順不同)

チャリティ自動販売機協力企業

株式会社アベックス (設置 株式会社デンソープレストック)、株式会社PSビバレッジ (設置 株式会社クイックス、WAFCA)

サントリービバレッジソリューション株式会社 (設置 日進医療器株式会社、公盛工業株式会社)

株式会社シェフランチ (設置 株式会社デンソーエアシステムズ)



WAFCA

WHEELCHAIRS & FRIENDSHIP CENTER OF ASIA



WAFCA日本事務局長
卯野 尚志

WAFCA日本事務局

アドバイザー



西村 春菜



熊澤 友紀子



近藤 みなみ



北村 翔一

WAFCAタイ事務局



ウイング



イウ



プーペー



オート

WAFCA中国コーディネーター



チョウケツ
張傑

WAFCAインドネシア事務局



レオナルド



アグス



エフィ



リヤ



メリア

WAFCAインドネシア事務局長
アриф・ダヌー・プラヨギ



WAFCA PR/事務 ボランティア



下之園 拓望



山本 羽奈



佐々木 唯乃



秋山 和豊



根本 健多



岡松 良典



佐々木 明美



五十嵐 景子

WAFCA Athlete



伊集 南



赤穂 さくら



永田 萌絵



木村 亜美



山澤 葵



川畑 瞳



洲鎌 夏子



白石 望美



工藤 嶺



上総 香子



庄司 祐美子



大西 花歩



阿部 愛莉



野村 萌



早川 漣



園田 稚



野村 光



中田 玲奈



岩出 玲亜
チャリティウォーク
サポーター

車いす病院ボランティア



神谷 一敏



小田 秀一



山下 亮



鈴木 仁



山内 一慶



岩田 吉臣



河野 千俊



橋高 寛治



大見 章



塩屋 文崇



小山 政浩



藤原 亮一



佐々木 悠人



松井 清



山崎 裕一



池田 直



岡田 ちあき



丹羽 崇人



水口 敏昭



熊谷 英樹



島田 行祥



齋藤 浩紀



中川 和也



黒川 智明



林 健次



川田 洋



金原 秀敏

WAFCAで はたらく
仲間 たち

財務報告

活動計算書

科目	2023年度			2024年度	
	計画	実績	達成率	計画	対前年増減率
I 経常収益					
1 受取会費	14,800,000	13,862,900	94%	14,358,000	104%
2 受取寄付金	23,295,000	25,634,107	110%	30,353,826	118%
3 受取助成金等	0	0	-	100,000	-
4 交流事業 イベント開催	0	0	-		
5 事業収益	5,720,000	3,017,834	53%	2,094,457	69%
6 その他収益	670,000	702,378	105%	188,136	27%
経常収益計	44,485,000	43,217,219	97%	47,094,419	109%
II 経常費用					
1 事業費	43,035,273	47,181,876	110%	46,768,945	99%
2 管理費	6,334,460	5,335,429	84%	5,142,959	96%
経常費用計	49,369,733	52,517,305	106%	51,911,904	99%
税引前当期正味財産増減額	-4,884,733	-9,300,086	190%	-4,817,485	
法人税、住民税および事業税	21,000	21,000	100%	21,000	
当期正味財産増減額	-4,905,733	-9,321,086	190%	-4,838,485	
前期繰越正味財産額	60,264,584	60,264,584		50,943,498	
次期繰越正味財産額	55,358,851	50,943,498		46,105,013	

貸借対照表

I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	107,854	預り金	313,727
普通預金	28,878,830	未払金	255,456
売掛金	18,200	流動負債合計	569,183
青少年交流基金特定資産	1,000,008	2 固定負債	
繰越商品(チャリティ商品)	70,308	固定負債合計	0
貯蔵品(切手、収入印紙、商品券、図書カード)	44,987	負債合計	569,183
前払費用	560,935	III 正味財産の部	
流動資産合計	30,681,122	前期繰越正味財産	60,264,584
2 固定資産		当期正味財産増減額	-9,321,086
有価証券	20,296,007	正味財産合計	50,943,498
車両運搬具	438,095	負債及び正味財産合計	51,512,681
什器備品	97,457		
商標権	0		
固定資産合計	20,831,559		
資産合計	51,512,681		

※法人税を含む

2023年度の活動計算書、貸借対照表は会計帳簿の記載金額と一致し、認定NPO法人アジア車いす交流センターの収支状況及び財政状態を正しく示していると認める

監事

金子尚弘
米光秀司

財務に関する分析

2023年度

収益は予算対比97.1%となり、概ね予算通りの金額となりました。内訳としては寄付収入が予算を上回り、事業収益が予算を下回る結果となっています。費用は予算対比106%となり、予算から上振れする結果となりました。要因としては円安の進行などによりWAFCAT及びWAFCAIへの事業管理費の支出が増加したことです。

2024年度の見通し

2024年度予算は2023年度実績から寄付収入を中心に収益を増加させる予算となっています。費用予算は微減としているため、約480万円の赤字予算となっています。事業を縮小させ収支均衡を急ぐのではなく、事業規模を維持しつつ収益を伸ばして行く見通しです。引き続きWAFCAへのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

WAFCAが目指す未来の姿(WAFCA20周年記念作品)

